

## 平成 29 年度第 3 回佐倉市行政評価懇話会

1 日 時 平成 29 年 9 月 27 日（水） 9 時 30 分～12 時 00 分

2 会 場 佐倉市議会棟 2 階 第 3 委員会室

3 内 容

### 議 事

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略施策の進捗について

4-7 災害に備えた体制整備・支援 (危機管理室)

1-2 既存企業の新たな展開の促進 (産業振興課)  
(地方創生加速化交付金活用事業の効果検証を含む)

1-3 起業の促進 (産業振興課)

1-4 市内雇用拡大・就業支援 (産業振興課)

1-6 農業経営の安定強化 (農政課)

2-4 都市と農村の交流促進 (農政課)

4-8 農業の多面的機能の維持保全活動の推進 (農政課)

4 その他

(1) 事務連絡等 (事務局)

---

### 資料

<本日配布資料>

- ・資料 1 第 3 回対象施策・担当一覧
- ・資料 2 地方創生加速化交付金を活用した H28 年度基礎調査について

<第 2 回配布資料>

- ・資料 3 佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

実施計画書 (平成 29 年度～平成 31 年度)

その他参考資料

平成 29 年度第 3 回佐倉市行政評価懇話会  
 (平成 29 年 9 月 27 日 (水) 実施)  
 佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
 効果検証対象施策・事業／担当一覧

No.	時間	施策名	取りまとめ 推進課	関連課	説明者
1	9:30	4-(7) 災害に備えた体制整備・支援	危機管理室	-	危機管理室長 黒浜 伸雄
2	9:45	企業支援施策等ワンストップ化 推進事業 (地方創生加速化交付金活用事業)	産業振興課	-	産業振興課長 岩井 克己
		1-(2) 既存企業の新たな展開の促進			
3	10:00	1-(3) 起業の促進	産業振興課	-	産業振興課長 岩井 克己
4	10:15	1-(4) 市内雇用拡大・就業支援	産業振興課	-	産業振興課長 岩井 克己
		休 憩			
5	10:45	1-(6) 農業経営の安定強化	農政課	-	農政課長 岩井 一徳
6	11:00	2-(4) 都市と農村の交流促進	農政課	-	農政課長 岩井 一徳
7	11:15	4-(8) 農業の多面的機能の維持保全 活動の推進	農政課	-	農政課長 岩井 一徳

## 地方創生加速化交付金を活用して実施した

### H28年度基礎調査の概要について

契約名称 佐倉市起業支援・企業誘致等ワンストップ化推進事業に係る基礎調査等業務委託

契約金額 8,670,045円（地方創生加速化交付金を活用して実施100%）

事業期間 平成28年9月7日～平成29年2月28日まで

委託先 一般財団法人 日本立地センター

調査目的 「しごと創生」につながる起業支援、企業誘致、既存企業支援の取組み効果を更に高めるため、市内における起業支援へのニーズおよび市内外企業の増設・新設等の事業用地取得ニーズ等を調査・分析し、佐倉市が行う起業支援・企業誘致に必要となる支援施策を検討するための基礎情報とすることを目的とする。

調査内容 ①起業支援関連調査

- ・佐倉起業塾受講生に向けたアンケート調査の実施
- ・佐倉起業塾受講生に向けたヒアリング調査の実施
- ・インキュベーション施設のヒアリング調査、実現可能性検討

②企業誘致関連調査

- ・佐倉市内・市外企業アンケート調査
- ・佐倉市内・市外企業ヒアリング調査
- ・新産業用地の可能性調査

調査対象 【アンケート調査】

起業者 発送数 163件、有効回答数 82件（回答率53.2%）

市内企業 発送数 225件、有効回答数 58件（回答率25.8%）

市外企業 発送数1,993件、有効回答数 89件（回答率4.5%）

【ヒアリング調査】

起業者 4名

市内企業 25社

市外企業 10社

## 本事業における重要業績評価指標（KPI）の設定について

		KPI1	KPI2	KPI3	KPI4
本事業における重要業績評価指標（KPI）の名称		工業団地等において新規に誘致した企業数	市の助成を受け再投資した企業数	佐倉起業塾（入門編・実践編）を経て新たに起業した人数	「商店街空き店舗等出店促進補助金」を活用して起業した件数
事業実施計画の申請時点での、KPIの <b>当初値</b>	28年2月	0社	0社	0人	0件
事業実施計画の申請時点での、KPIの <b>目標値</b>	事業終了時点 29年3月	1社	1社	1人	1件
	数年後 32年3月	5社	3社	5人	5件
本事業終了時点での、KPIの <b>実績値</b>	29年3月	1社	3社	9人	2件

## 調査報告書 概要（起業支援）

### 1 佐倉起業塾アンケート調査の実施概要および結果

実施期間 2016年11月14日～11月25日

（再発送） 2016年12月12日～12月22日

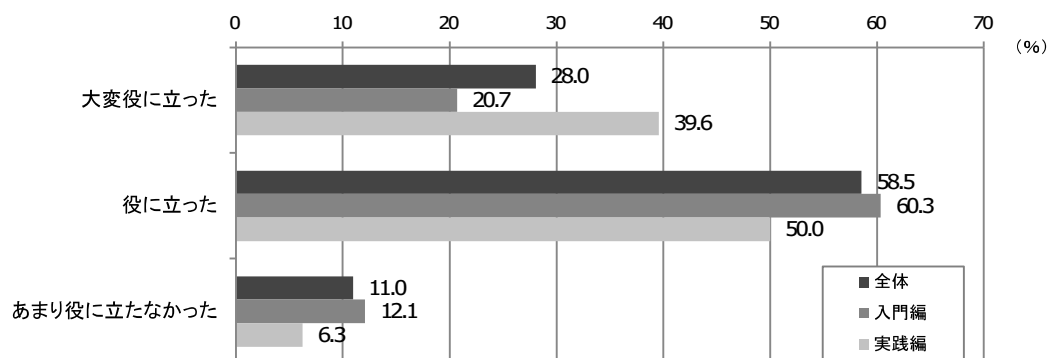
対象者 佐倉起業塾修了者（平成26年度～平成28年度前半実施分）

有効発送数 156名

有効回答数 82名（回答率 53.2%）

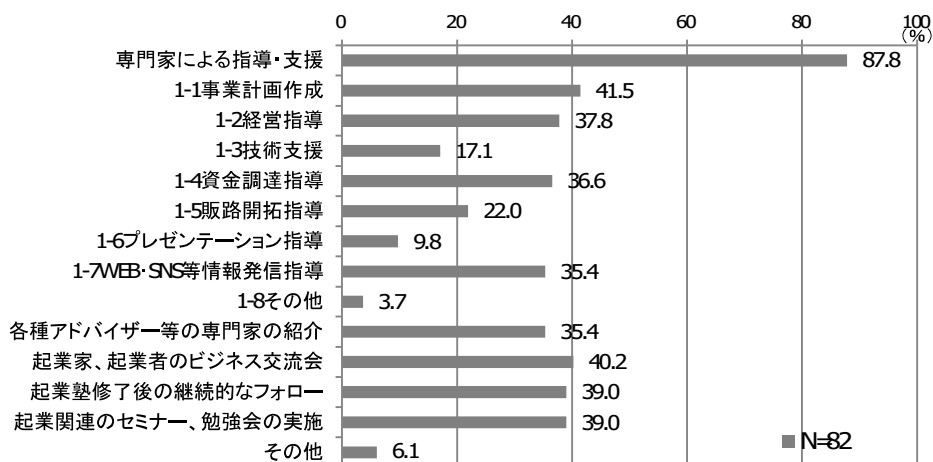
#### ＜問3＞ 受講内容の評価について

全体の「大変役に立った」「役に立った」を合わせると86.5%であり、非常に評価が高い。



#### ＜問5＞ 起業するために活用したい支援内容について

個別指導支援はニーズが高く、事業計画づくりをフォローする役割が求められる。ネットワークづくりのサポートや、起業塾修了後のフォローも重視すべきである。



## 【資料 2】

### 2 佐倉起業塾の改善検討内容

今回実施した佐倉起業塾アンケート調査、修了者のヒアリング結果を踏まえ、以下を提案する。

#### (1) スケジュールの一覧性

- 年間スケジュールを一覧にし、時期や時間帯など、参加者の都合に合わせた選択を容易にする。

#### (2) 情報提供 メールマガジン、WEB 等の活用

- 補助金、関連セミナー（他地域を含む）、交流会などの情報をメールマガジンとして発信する。
- 修了者のフォローだけでなく、誰でも登録可能にすることで、裾野を広げることができる。

#### (3) 起業家、起業家（起業を目指す人）の交流促進 ビジネス交流会の開催

- 先輩起業家の話を聞く機会や、起業家同士が交流する機会を設けることで、起業の意欲を高め、準備をするきっかけづくりにできる。
- 相互の意見交換・情報交換・アドバイスを受ける場を設けることで、経営者としての資質の向上や精神的サポートにつながる。
- おもてなしラボ（佐倉市新町）などを拠点として活用する。

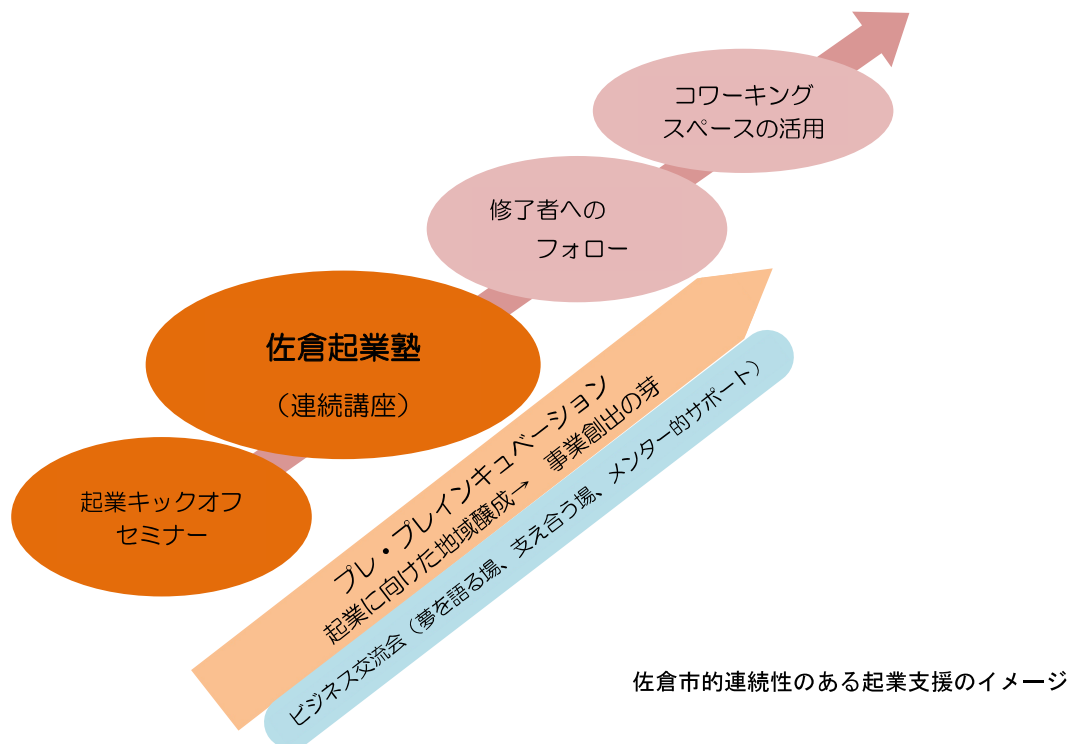
#### (4) 起業実現を高めるしくみ 入門編と実践編の差別化

- 初期段階の方への間口を広げることに特化した企画を実施する。一方で、実践的段階の方を対象に、簡単な事業計画といった事前課題を提示するなど参加申込のハードルを上げることにより、熟度の高い起業家が集まることになり、相互に切磋琢磨できる効果的な取り組みとなる。

入門編	→ 「起業キックオフセミナー」連続講座よりも起業セミナーの内容にする。 地域の先輩起業家や受講者の生の体験など。
実践編	→ 事業計画の深掘りに特化する。内容の濃い連続講座形式。（有料を検討）

#### (5) 起業実現と自立化・成長促進のための連続性・一貫性のある支援

- 上記の情報提供、ビジネス交流会、起業キックオフセミナーなどを通じて、起業家の関心、志すきっかけ、将来設計や具体的なイメージづくり、相談意欲を創出させる取り組みを行う。起業を具体化しようとした時に必要な知識、ノウハウの提供、起業準備のサポートが必要である。
- 地域の支援機関や支援者（市、商工会議所、金融機関等）がバラバラな対応をしていては起業家および起業家が混乱してしまうため、起業家の状況把握と支援のための定期的な情報交換など相互連携が必要であり、段階に応じて一貫した伴走型のサポートが重要である。



### 3 インキュベーション施設の検討

起業に向けた綿密な準備、また起業後の自立化、成長促進のためには起業家を支援するインキュベーション施設は効果的な方策だが、施設先行では成果は望めない。まずソフト的な起業支援のノウハウを蓄積していくことが先決である。

それまでは、市内にある「おもてなしラボ」の積極的活用や、創業相談窓口「MEBUc さくら」の機能強化を図ることで対応すべきである。

調査報告書 概要（企業誘致）

1 佐倉市内および市外向け企業アンケート調査の実施および結果概要

＜アンケート発送内容＞

〔市内企業向け〕

実施時期 2016年11月7日～11月25日

（再発送） 2016年12月19日～12月26日

対象地域 佐倉市内（工業団地内立地企業、佐倉商工会議所工業部会員企業）

対象業種 全業種

発送数 225件

有効回答数 58件（回答率25.8%）

〔市外企業向け〕

実施時期 2016年11月7日～11月25日

対象地域 佐倉市周辺地域、京成本線・JR 総武本線沿線地域（千葉県内、東京都内）

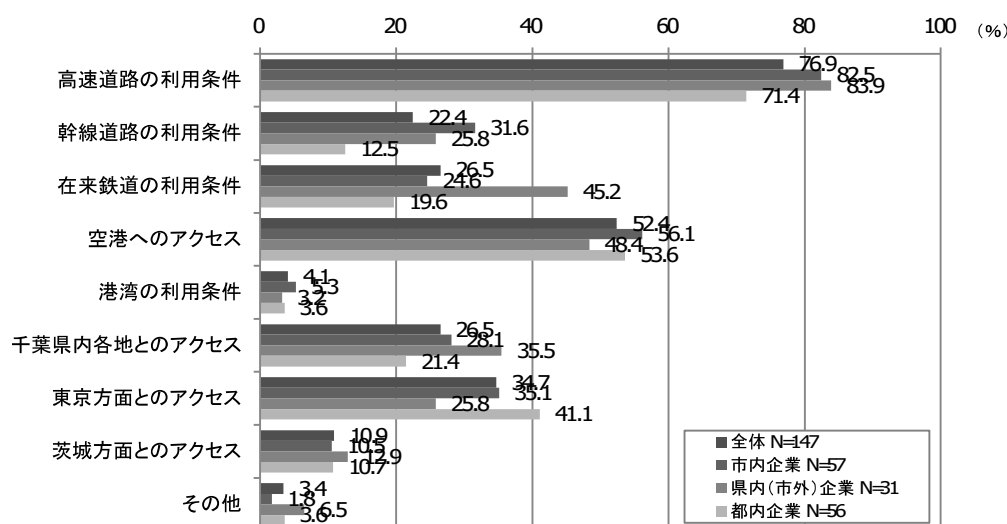
対象業種 E 製造業、44 道路貨物運送業、47 倉庫業、48 運輸に付帯するサービス業、71 学術・開発研究機関、74 技術サービス業

発送数 1,993件

有効回答数 89件（回答率4.5%）

＜問1＞ 佐倉市の立地環境に対する評価（交通・輸送条件、交通アクセス条件）

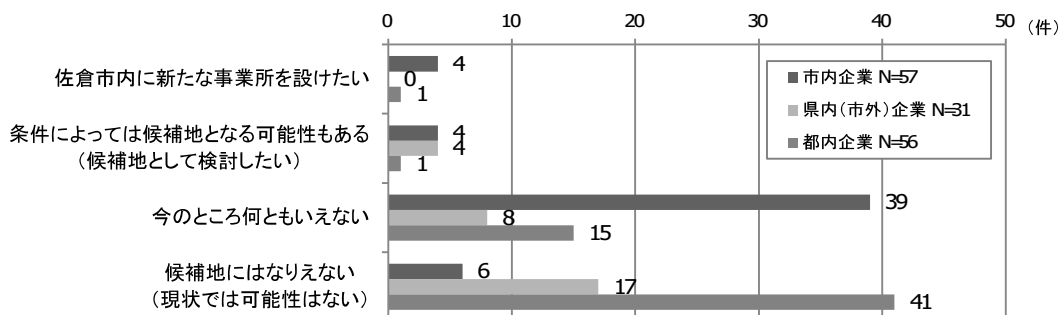
佐倉市の強みとして、「高速道路の利用条件が良い」が全体で76.9%と最も高く、次いで「空港へのアクセスが良い」が全体で52.4%と高い評価を得ている。





### ＜問5＞ 佐倉市が立地候補地となる可能性

「佐倉市に新たな事業所を設けたい」が市内企業 4 件、都内企業 1 件であった。「今のところなんともいえない」と回答した企業であっても、丁寧かつ確かな情報提供、企業の立地条件をケアしていくことで、市内立地へと誘導する糸口となる。



## 2 佐倉市の企業立地における産業振興施策の検討

佐倉市のアドバンテージ面と今後の改善点を踏まえた方策について検討する。

### (1) 企業誘致の課題は克服できる

良好な産業用地の確保や、交通ネットワークを活かした人材の確保など、企業の理解を得るための対策、アピールを実施し、本市の強みを十分に活かした産業用地が提供できれば、企業の意向を獲得することは可能である。

佐倉 IC 付近での産業用地開発の計画もあり、こうした佐倉 IC の立地の強みを活かした事業や、人材を確保しやすい駅近の産業用地開発などの取り組みが有効である。

### (2) 市内立地企業へのマッチングサポートが重要

市外の企業誘致と同様に、取り組むべきは市内企業へのサポートの充実である。市内に古くから立地している企業であっても、工場維持管理に利便性の高いとされる地元建設会社や電気工事会社との地域内連携が少なく、地域企業との相乗効果が図られていないことが今回の調査で確認された。

優れた市内企業の事業テーマ別リストを冊子や WEB で作成・活用するなど、紹介ツールを強化することにより、見積依頼から始まり、立地している大手企業と地域の中小企業との連携が増えると共に、企業留置にもつながる。

### (3) 市内交通ネットワークの充実が地域経済の活性化につながる

佐倉市の強みである交通ネットワークを十分に活用できる環境・インフラ整備を市内にも展開することが重要である。市内の幹線道路における慢性的な渋滞は、生活圏と工業団地を分断するだけでなく、トラック輸送や従業員の通勤に支障を来している。物流と人材のネットワークは、佐倉市の最も重要な柱であるにも関わらず、市内道路の脆弱性が、マイナスに作用させている。最重要課題として改善する必要がある。

「住みよいまち佐倉市」だけでなく、市内各所や周辺地域からも通勤しやすいことを指標として、「働きやすいまち佐倉市」を目指すべきである。

(4) 工業団地内のインフラ再整備が地域産業の活性化につながる

近年のゲリラ豪雨による団地内道路の冠水、工場敷地内への浸水が増えている。一時的なことであるが、生産活動に支障を来しかねない。道路に溜まった落ち葉や泥のこまめな清掃で改善する部分もあるが、配管や溝内の本格的な洗浄、調整池の工事等も検討すべき時期にきている。既存工業団地内インフラの再整備の検討が必要である。

3 新産業用地の可能性調査

佐倉市における企業立地適地は既に飽和状態であり、今後の企業誘致にあたっては、用地不足が大きな懸案事項となっている。

そこで一案として、佐倉第三工業団地隣接地（岩富緑地）において、市有地および千葉県土地開発公社の所有地の一部を活用した場合の新たな産業用地整備のモデルプランを検討した。

開発については、土地形態の特性から土砂崩れ等の災害リスクがあり、行政として特に継続的な施工管理が求められる。市内の高崎地区（佐倉 E 北口）における物流拠点開発などの動きがあるなかで、それ以上の産業用地の確保については、本市の産業振興に資する具体的な企業立地の需要が掘めてきた段階で新産業用地の事業化を検討するものとする。

